

文化の風が吹くまち ちくしの

文化薫道

◆其の六十 二日市に古代のお寺？

現在の二日市六反周辺の小字が立明寺、その北側が光正寺というのを「存じでしようか。小字は、現在は住所として使われていませんが、地域を細分化した地名です。」

この地名について、昭和29年に発行された『町制六十年記念二日市小史』の「二日市町六反立明寺跡」に、次のような興味深い言い伝えが記されています。

二日市塔原間の道路拡幅工事の時に、古代の瓦や埴(せん)：粘土を四角にして焼いたレンガ状のもので特別な施設に使われる(が)並んで出土し、周辺の畑からは一般人では持ちえないような花瓶が出土したそうです。これらの記述や、立明寺という小字から周辺に華麗な寺院が存在したのではないかと伝えられています。

いつの時代にこの小字がつけられたのかは分かりませんが、当時も出土したものがらかつて「お寺」があったのだと考えたのかもしれない。



黒四角線は、古代大宰府に基盤の目状に造られた区画(条坊)で、太線は条坊中央に造られている大路です。赤線は小字の境線です。

一方で、近年の発掘調査の成果などから古代大宰府の研究が進み、くしくもこの辺りは、古代大宰府の入口にあたる門の推定位置と考えられています。出土したとされている瓦や並んだ埴などは現在確認できませんが、それらは門の存在を示す可能性があります。もしも、それが門の一部であったならば、壮麗な門だったのではないのでしょうか。今後、この場所での発掘が進み詳細が明らかになる時が楽しみです。

問い合わせ先／文化財課

